

第6号様式（第14条関係）  
新宿区長 へ

平成24年 4月 11日

法人名 特定非営利活動法人ビーマップ  
所在地 新宿区下落合2-6-20  
パークサイド栄光205  
(フリガナ) セオアキョ  
代表者氏名 理事長 瀬尾亜希子

印

## 協働推進基金助成金交付申請書

新宿区協働推進基金条例施行規則第14条の規定により、下記のとおり助成金の交付を申請します。

記

助成金申請額 500,000 円

1 助成対象事業

事業名	みんなの「バリアフリー映画上映」プロジェクト	
事業種別	○既存事業	新規事業
申請する助成の種類	NPO活動資金助成	○新事業立上げ助成
過去に本助成を受けた実績	助成年度（ ）事業名（ ） 助成年度（ ）事業名（ ） 助成年度（ ）事業名（ ）	
この事業に対し他の助成の有無 (申請中のものを含む。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	有の場合は助成団体及び助成額 団体名： 助成額： 円
事業実施地域及び会場	新宿区内の公共施設（地域センター、区民ホールなど）	
スケジュール (実施期間等)	平成24年6月から平成25年3月まで（添付資料1）	
区民ニーズの把握状況 (それは、どのように把握したかを含む。)	<p>障害者や高齢者の情報保障として、映画や動画のバリアフリー化（邦画には字幕と音声ガイド、洋画には吹替えと音声ガイド）が限定的に取り組まれているが一般には認知されていない状況。バリアフリー映画祭の関係者や研究者との交流会、参加者のアンケートから、バリアフリー映画上映の機会を増やしてほしいと要望がある。</p> <p>新宿区戸塚地域センターにて過去4回、バリアフリー映画の自主上映会を実施。最大だった平成23年8月1日（日）多目的ホールの実施は、虫プロ協力の下「ジャングル大帝」をライブで公演、100名余りの入場者数。高齢者（30名）、視聴覚障害者（12名）、学童（21名）は家族連れで来場。「広報しんじゅく」で告知した反響は大きく、問い合わせや直接来場された方も多く、新宿区民の関心の高さがうかがえた。また、区内の高齢者在宅サービスセンター（「かしわ苑」北新宿）や東京都視覚障害者生活支援センター（河田町）の運営者側から賛同もあり、実施の要望がある。</p>	
事業の対象者	新宿区民（視聴覚障害者、知的障害者、高齢者、学童を含む）	

<p style="text-align: center;">活動内容</p> <p>※必要に応じて、図表、地図、イラスト、写真等を添付し、又は印刷物等の資料を提出していただいても結構です。</p>	<p>新宿区に特化したバリアフリー映画上映事業を、みんなの「バリアフリー映画」プロジェクトとして、ビーマップの新たな活動に位置付け通年で実施する。映画の音声ガイドや字幕台本はビーマップ会員がボランティアで自主制作し、上映会ではライブのナレーションも担当。同プロジェクトでは、上映作品、場所、規模、主な対象者を変えて実施。設営や運営は、会員である専門家や経験者が担当し、外部の講師（映画監督など）や手話ボランティアは最小限に留め、持続可能な一般市民の協働事業として実施する。</p> <p>区民ホールでのライブ公演（1回）、戸塚地域センター・多目的ホール（3回）、高齢者在宅サービスセンター（1回）、高齢者施設（2回）、視覚障害者生活支援センター（2回）、区内で全9回のバリアフリー上映会を実施する。ビーマップ（B m a p）“Barrier-free movies for all people”の理念に則り、障害の有無や年齢にかかわらず、広く新宿区民にバリアフリー映画を皆で一緒に“観て聴いて”感動を共有する機会としたい。</p> <p>（予定と進行については、添付資料1及び2を参照）。</p>
<p style="text-align: center;">地域の人たちの事業 へのかかわり方</p> <p>（ボランティアとして参加する等、どのように地域の人がこの事業に参画することができるかを記入してください。）</p>	<p>映画や動画のバリアフリー化は、先駆的な業界関係者や専門家・研究者の取り組みでしかなかったが、デジタル技術の進歩・普及に伴い、一般人のボランティアが制作や上映に関わることができる情勢にある。新宿区内の地域センター・区民ホールを活用して費用面の課題を軽減し、区民が参加できるバリアフリー映画上映会を通じて、障害とは何かを共に考える機会となる。また、新宿区を拠点とする視覚障害者生活支援センターや高齢者在宅サービスセンターでの上映会（出張ライブ）も実施し、“バリア”を超えたコミュニケーションの楽しさを体感してもらいたい。</p> <p>障害の有る人（今まで観る機会や聴く機会が少ない人）も無い人も、高齢者（目や耳が悪くなって観る機会が減った人）も子供も、みんなと一緒に映画を“観て聴く”バリアフリー映画の存在を広め、その必要性や理念を認識してもらうことで、感動や楽しみを共有できる新しい社会・街づくりに区民も自主的、積極的に参加でき、地域社会への貢献（特に孤立しがちな高齢者とのコミュニケーション）も期待できる。</p>
<p style="text-align: center;">実行体制</p> <p>（必要とされる人員とその確保のめど、必要な設備等）</p>	<p>B m a p 正会員（38名）がバリアフリー映画台本の制作、ナレーション、会場運営などを担当。講師に映画監督を招きミニ基調講演（2回）を依頼し、手話通訳の応援（学生ボランティア3名を2回）も考慮する。来場者を含む参加者全員のイベント保険、実施者の団体保険をかけることで万が一の事故にも対応する。</p> <p>上映施設は地域センター、区民ホール、高齢者・障害者支援施設を予定。DVDプレーヤー、OHプロジェクター、スクリーン、マイク、ミキサー、スピーカーなどバリアフリー映画上映に必要な機材は、施設の設備状況に応じてレンタルで対処する。</p>

期待される成果	区民や地域にもたらす具体的効果	<p>バランスのとれた福祉のあり方や、障害を乗り越える方法を地域の人と共に考え、障害者や高齢者の情報保障(バリアフリー化)を推し進める“声”を新宿から発信する。</p> <p>映画上映のバリアフリー化に留まることなく、様々な情報映像や音声のバリアフリー化(例えば図書館のDVD、区の広報映像や公共放送、テレビ番組やドキュメンタリーなど)が検討課題として認識されることに加え、災害時の緊急放送、情報提供のバリアフリー化などが期待できる。新宿区の社会インフラに於ける新たな取り組みのきっかけとなり、地域の情報関連の起業や振興にもつながる。</p> <p>新宿から発信された「映像と音声情報のバリアフリー化」という新しいスタンダードを求める運動が、東京や日本全国、更にアジアや世界へと広がり、人に優しい共生社会の形成に繋がる可能性もある。</p>
	申請事業を実施することによる貴団体の活動への効果	<p>新宿区内の地域センターや公共施設の優先的予約が可能となれば、より効率的で計画的な活動実施ができる。新宿を拠点とする活動の弾みになると共に実績を積むことで、公共機関や関連教育施設・福祉施設などで、障害者や高齢者の情報保障に協力できる態勢を整えることができる。</p> <p>新宿区内でのビーマップの認知度が上がることで、会員やサポーターの獲得にも役立ち、バリアフリー映画ライブ公演を永続的に実施することも検討する。</p>
貴団体の経営基盤強化に向けた取り組みと今後の展望	<p>制作・上映にかかる経費を賄えるようにするため、一般人向けに有料インストラクター養成講習会の開催及びバリアフリー映画のライブ公演の有料化を図る。また、経費節減の一環として、上映映画作品の提供や資金援助を業界や関連団体などに協力依頼する。</p> <p>有給のサービスへ徐々に転換することにより、ボランティア活動の限界から脱却し、より精力的な取り組みと永続的な活動を可能としたい。</p>	

## 2 助成対象事業費内訳（積算根拠）

※協働推進基金助成金は、助成申請額を入れて積算して下さい。

※入場料又は会費を徴収して行うイベント、公演等は、必ず単価を入れてください。

(G)

	経費	積算根拠（内訳）	金額
収入	団体負担金		878,900円
	参加費・資料代等	参加費(資料代)500円 x 80名 x 3=120,000円 参加費 1,000円 x 130=130,000円	250,000円
	その他の収入		円

	協働推進基金助成金	助成希望額 500,000円	
	計	1,628,900円	
助成の対象になる事業費の内訳	費目	予算額	内訳
	会議費・場所代	164,900円	1. 会議 戸塚地域センター 午後1・2の4時間 月3回 ① 1,200円 x 18回 = 21,600円(打ち合わせ、会議室1を使用) ② 1,800円 x 9回 = 16,200円(モニター会、会議室1・2共に使用) 2. 上映会 ①戸塚・多目的ホール 午後1・2使用 4,400円 x 3 = 13,200円 ③ 四谷区民ホール(土日午後4時間、有料上映) ホール 90,400円 リハーサル室 7,600円 楽屋1 4,000円 102,000円 附帯設備費 11,900円 (添付資料3) (DVDプレーヤー、OHプロジェクターは持込)
	宣伝費	44,000円	チラシ(カラー)の印刷 4400枚 x 10円 = 44,000円
	リース費	75,000円	バリアフリー映画上映に必要な機材(DVDプレーヤー、プロジェクター、スクリーン、ミキサー、スピーカー、マイクなど) 作品や施設の状況に応じてレンタル対応(添付資料4) 5,000円 x 3回 = 15,000円 (高齢者用施設) 30,000円 x 2回 = 60,000円 (障害者用施設)
	消耗品費	円	
	謝礼	84,000円	講師謝礼10月戸塚・多目的ホール、2月区民ホールの2回 30,000円x2人 = 60,000円 手話ボランティア謝礼 4,000円x3人x2 = 24,000円
	人件費	300,000円	9回の内7回の上映会実施日当日のみで延75人(台本制作は会員の無料奉仕) 4,000円x5人x3回 = 60,000円(高齢者施設) 4,000円x15人x4回 = 240,000円(ホール)
	材料費	540,000円	映画上映料 作品により異なる。9作品を予定。 30,000円x3 = 90,000円 50,000円x1 = 50,000円 80,000円x5 = 400,000円

	交通費	22,000円	講師交通費 5,000円x2回=10,000円 手話ボランティア交通費 2,000円x3人x2回=12,000円
	その他諸経費	319,000円	郵便代(ちらしを関係団体等へ送付) 80円x1000枚=80,000円 イベント保険料 39,000円 字幕焼き付け委託料100,000円x2=200,000円
	助成対象事業費(小計)	1,548,900円	
	助成対象外事業費	80,000円	視覚障害者生活支援センターでの2回の上映会当日の奉仕活動(上記の人件費に含まない) 4,000円x10人x2回=80,000円
	<b>事業総額</b>		<b>1,628,900円</b>

### 3 その他

助成金申請額を減額して助成金の交付決定をした場合、助成対象事業の遂行は可能ですか。

(  はい ・  いいえ )

#### 助成対象経費

下記項目以外の経費(飲食費等)は、対象といたしません。

項目	経費の種類
① 議費	打合せ、会議資料コピー代、会場使用料等
② 宣伝費	チラシ、ポスター等作成費
③ リース費	事業に直接必要な機器の賃借料
④ 消耗品費	事務用品の購入費
⑤ 謝礼	講師、協力団体等への謝礼(1時間当たり1万円を限度とし、1日当たり3万円を限度とする。)
⑥ 人件費	事業実施に直接関る事業主体の人件費として時間単価1,000円、1日あたり1人4,000円を上限として、かつ助成対象事業費の20%以内
⑦ 材料費	事業に直接必要な材料の購入費
⑧ 交通費	公共交通機関の交通費、講師との事前打合せのための交通費等(タクシー代は除く。)
⑨ その他諸経費	損害保険料、郵送料等(チャリティ募金、寄附金等は除く。)